

製品名: GSK3 α / β (リン酸化 Tyr279/216) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab04752

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	51,46kDa

抗原情報

遺伝子名	GSK3A/GSK3B
別名	GSK3A; Glycogen synthase kinase-3 alpha; GSK-3 alpha; Serine/threonine-protein kinase GSK3A; GSK3B; Glycogen synthase kinase-3 beta; GSK-3 beta; Serine/threonine-protein kinase GSK3B
遺伝子 ID	2931.0
SwissProt ID	P49840/P49841
免疫原	抗血清は、ヒト GSK3 α / β の Tyr279/216 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 246-295

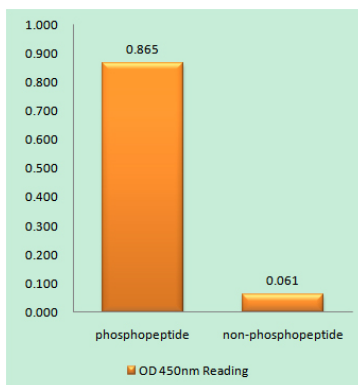
背景

グリコーゲン合成酵素キナーゼ 3α (GSK3A) ホモサピエンスこの遺伝子は、グリコーゲン合成酵素や JUN などの転写因子を含むいくつかの調節タンパク質の制御に関与する多機能 Ser/Thr タンパク質キナーゼをコードしています。また、WNT および PI3K シグナル伝達経路で役割を果たし、アルツハイマー病に関連する β アミロイドペプチドの産生を制御します。[RefSeq 提供、2011 年 10 月], 触媒活性: ATP + [タウタンパク質] = ADP + [タウタンパク質] リン酸。機能: グリコーゲン合成酵素、MYB、転写因子 JUN を含むいくつかの調節タンパク質のホルモン制御に関与しています。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。GSK-3 サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット:モノマー。,

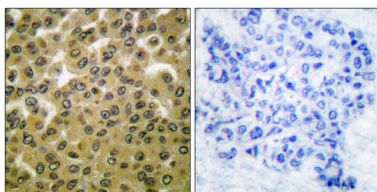
研究分野

ケモカイン;

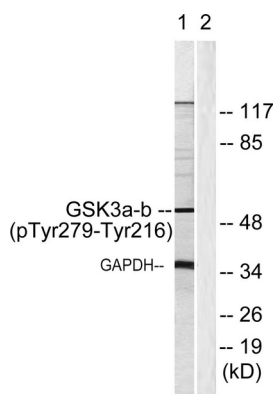
画像データ



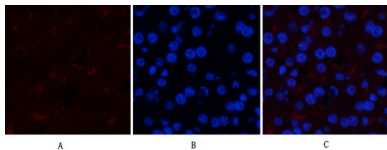
GSK3 α/β (リン酸化チロシン 279/216) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



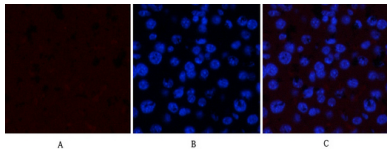
GSK3 α/β (リン酸化チロシン 279/216) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



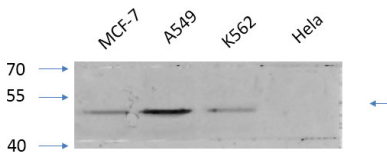
GSK3 α/β (リン酸化チロシン 279/216) 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



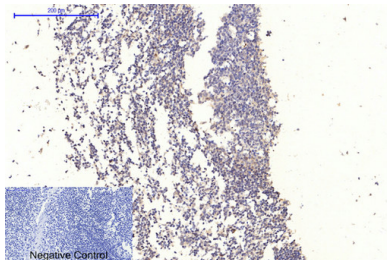
マウス肝臓組織の免疫蛍光染色。1, GSK3 α/β (リン酸化 Tyr279/216) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



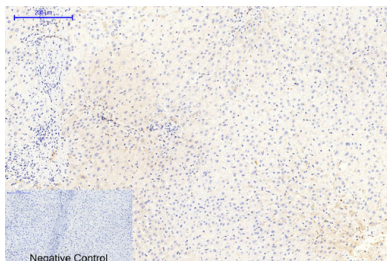
マウス肝臓組織の免疫蛍光染色。1, GSK3 α/β (リン酸化 Tyr279/216) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



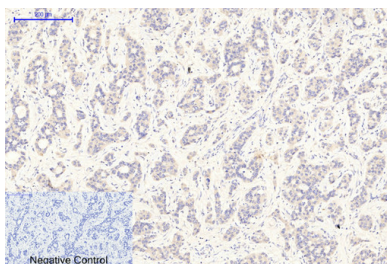
GSK3 α/β (リン酸化 Tyr279/216) ウサギポリクローナル抗体 (1:1000 希釈、4°C、一晚) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体: ヤギ抗ウサギ IgG IRDye 800 (1:5000 希釈、25°C、1 時間)。



パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学染色。1, GSK3 α/β (リン酸化 Tyr279/216) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3, 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肝組織の免疫組織化学染色。1, GSK3 α/β (リン酸化 Tyr279/216) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3, 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。1, GSK3 α/β (リン酸化 Tyr279/216) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3, 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。